

(様式2)

令和4年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570600435		
法人名	社会福祉法人 御幸会		
事業所名	グループホームしばた		
所在地	新潟県新発田市下中山246番地1		
自己評価作成日	令和5年2月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会 外部評価機関「あいエイド新潟」		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和5年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然の中、四季を身近に感じながら家庭的な環境の下、それぞれが自信を持ちながら共同で生活している所を見て頂きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は新発田市郊外の小学校の跡地に建てられている。高台に同法人が運営する特別養護老人ホームに併設しており、利用者は自然豊かな環境の中で、四季を感じながら過ごすことができる。運営する法人は病院、特別養護老人ホーム、老人保健施設等多角的に運営しており、事業所は法人のバックアップを受けながら安定した運営が行われている。利用者も法人が運営する病院での定期診察による健康管理や、状態に合わせて住み替えが支援されるなど、終末期まで安心して過ごせる事が支援されている。

事業所は開設時より、定員6名の小規模で運営しており、少人数の利用者を馴染みのある少人数の職員によって、ケアを行う環境を整備している。「のんびり、ゆったり、自分らしく」という事業所理念に基づくケアを日々実践し、利用者一人ひとりを尊重した暮らしを支援する事で、利用者も不安を抱えることなく、ゆったりと暮らすことが出来ている。

管理者をはじめ職員は、小規模ケアならではの良さを大切にし、利用者の個別性に深く関わりながら、本人を理解していきたいとの共通した意欲をもち、統一した方向性で運営に関わっている。

併設する特別養護老人ホームと事業所は、防災訓練の合同実施や他にも各種の合同委員会の設置、研修会などを通じ、協力・連携体制が図られている。コロナ禍による地域との交流も現在は自粛しているが、今後は徐々に再開していきたいと考えている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一つであることを意識しながらご利用者が「のんびりゆったり」の気持ちを持つ事ができるように共有し、年に一回ミーティングにて見直し継続を話し合っている。	理念は毎年度4月に全職員で振り返りを行い、事業所全体の取り組みが理念の実践につながっているかを確認している。利用者が「四季を感じながらのんびり、ゆったり、自分らしく」暮らし続けることを支援できるように、日々共有を図りながら実践している。理念は利用者が書いた物を見えやすい所に掲示し、また、お便りにも載せるなどの方法により、家族や地域に発信している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの為、地域行事は行っていなかったが地域の喫茶店などよりおやつを購入したり、野菜をいただいたり交流している。	現在はコロナ禍にあり、地域との交流は自粛している。コロナ禍以前は、併設する特別養護老人ホームと一緒に夏祭りを開催して地域との交流を行い、ボランティアや小学校・中学校生の受け入れや、認知症カフェへの参加などを通じて地域との交流機会を拡大してきた。現在も地域住民から野菜の差し入れがあったり、神社の催事には参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの為、地域の人々との交流があまりなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では併設の特養地域密着型と合同で実施していたが、新型コロナウイルスの為、書面での開催とし意見交換を行っている。	コロナ禍以前は、2ヶ月に1回併設する特別養護老人ホームと合同で開催していたが、現在は書面での開催となっている。メンバーは、利用者、家族、区長、民生委員、介護相談員、地域包括支援センター職員で構成されている。利用者・家族は年に1回は順番に参加する仕組みになっている。書面会議では、行事報告等を行い、意見を寄せてもらうように働きかけているが、実際には意見の申し出がない状況である。	書面会議による開催の中でも、より利用者の暮らしや運営状況を伝える手段として、メンバーにも事業所が発行する広報誌(ハッピー新聞)の送付を行うことや、災害時の協力体制に関する課題などについても具体的な意見を募る等の工夫を行い、より地域との交流を深めていくために運営推進会議を活用して行く事を期待したい。また、順番に参加している家族に対して、参加しない際の会議録の送付も検討を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険区分変更や更新申請などで市の窓口に行った際に状況をお伝えしている。	市の担当者とは、利用者の各種手続き等で窓口に出向く時などに事業所の実情を伝えたり、情報をもたらしなどの関係が確立している。コロナ禍以前は市が派遣する介護相談員を通じて利用者の報告が行われており、また、地域ケア会議、認知症サポーター養成講座、認知症カフェへの参加を通じて連携が図られていたが、現在は休止している状況にある。今後は運営推進会議においても、感染状況を確認しながら、令和5年度からは対面式での開催を予定しており、また、市が介護相談員の派遣や会議、研修会を再開すれば参加していく予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、ミーティングの際に勉強会を行い理解を深めている。日中玄関は施錠せず寄り添って自由に過ごして頂けるように努めている。	虐待防止も含めた「身体拘束検討委員会」を併設の特別養護老人ホームと合同で設置している。事業所職員も委員会の構成員であり、会議録を回覧する事で、職員間で内容の共有を図っている。研修は事業所ミーティングにおいて事例を用いて話し合うなど、日々のケアを振り返りながら身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、日中は玄関の施錠を行わず、スピーチロック(言葉による行動制限)についても意識しながら、利用者に寄り添ったケアに努めている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の事例を基にした法律も含めて勉強会を行い、日々の業務の中で自らの行いをチェックしながら虐待防止に努めている。	虐待防止についてもミーティング時に事例を活用して研修を実施している他、日々のケアを振り返りながら、不適切なケアが行われていないかを職員間で話し合っている。法人では年2回職員のストレスチェックを実施し、また、管理者は、日頃から職員が一人でストレスを抱え込まないように声かけを行うなど、話しやすい職場の環境づくりに努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、理解を深める事ができるように勉強会を行い理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結や介助の際にはわかりやすく説明し、不安や疑問には具体的に丁寧に説明を行い、理解して頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族通信や、受診等でのご家族への電話連絡の時などに、様子をお伝えしている。その際に意見や要望をお聞きしている。	利用者からは、日常生活でのさりげない会話の中から、要望や思いを把握できるように声掛けを工夫したり、言動から気づけるように努めている。家族には月2回の定期受診結果の報告を行う際に、意見や要望を寄せてもらえるように声掛けしている。また、介護計画の見直しの際には、改めて意向を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ミーティングを行い、意見や提案を話し合っている。日ごろからも意見をだし検討できるように努めている。	日頃から話しやすい職場づくりを実践し、また管理者は、職員一人ひとりとも日常的に話す時間を確保して意見を聞いている。月1回開催する職員ミーティングにおいても、職員が意見を述べやすい会議運営を行っている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の業務に関する悩みやストレスに気を配り、話がしやすくなる環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が内部外部の研修などを受ける事ができるように配慮している。勉強会などで職員の知識が深める事ができるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスのため、オンライン研修などに参加できるよう配慮し情報交換を行いネットワーク作り等を通じてサービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談等で生活状況を把握し、ご本人の想いや不安、希望等を傾聴し信頼関係を築くことができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望等についてお聞きし、話し合いなどを通じてお互いに信頼関係を築きながら今後のサービスに繋げるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の想いなどの状況を十分に把握して必要な支援を行う事ができるよう努めている。また場合によって他の事業所サービスに繋げるなどの対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等ご本人ができる事を、職員と一緒にやりコミュニケーション等を図りながら、家族的な関係を築いている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族通信や、電話などでの報告で日々のでき事や気づいたことを報告している。ご家族と情報を共有し、共にご利用者を支えていく関係を築いている。	広報誌（ハッピー新聞）の送付や、受診結果の報告の際に暮らしの様子を伝えている。また、職員は居室担当以外の利用者の生活状況も把握しており、家族の問い合わせや来訪時には的確に伝えることができている。コロナ禍以前のように外出や買い物に家族と一緒に出かけるとはできないが、衣類の不足分や日用品の補充は家族に担ってもらっている。また、協力医以外の受診についても協力を得ており、日頃から健康管理については共有が図られている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある方と手紙でやり取りしたり、ゆかりのある場所にでかけたり等をして、関係が継続できるように努めている。	コロナ禍以前は、家族や知人が面会に来た時には、ゆっくりと過ごせるように支援をしてきたが、現在は窓越しの面会のみになっている。その中でも、利用者が訪問理美容では対応できない毛染めには、家族付き添いで馴染みの美容室の利用が継続できるように支援している。また、花が好きな利用者には花を活けてもらい、習字の好きな利用者には月1回習字教室を開催して、趣味の継続が行えるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活の中で、食事やお茶などご利用者同士が会話に参加できるように職員が一緒になりコミュニケーションを図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス提供が終了した後もホームでの様子や環境、支援内容等の情報交換を行って、継続した支援を行うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話や表情、行動等からご本人の一人ひとりの思い等を把握できるように努めている。	職員一人ひとりが、日頃から利用者の言葉に耳を傾け、行動にも注意を払いながら、意向や思いの把握に努めている。生活の中での気づきについては、支援経過や業務日誌に記録を行い、全職員で共有できるように努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からこれまでの生活歴や過ごし方等をお聞きし、日常会話からも新たな情報を得るようにしご本人の理解に繋げるように努めている。	入居契約前には状況に応じて自宅訪問等を実施し、利用者、家族と事前面接を行っている。面接時には「センター方式」のアセスメント様式を使用し、これまでの生活歴や生活習慣などの把握に努めている。また、介護サービスを利用していた方については、担当の居宅ケアマネジャーや関係機関からの情報も得ることができている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や生活リズムを把握し、その方のできることに注目しながら現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からの意見や要望をお聞きし、職員で話し合い現状に合った介護計画を作成するように努めている。	入居前の事前面接において、利用者、家族から暮らしに対する意向の確認を行い、アセスメント結果から暫定プランを作成している。入居後に居室担当を中心に新たな気づき等を話し合い、必要に応じて修正を行っている。目標達成に向けた援助内容については、モニタリングにおいて効果がなければ中止や修正を図り、利用者の現状にあったケアプランの作成を行っている。	今後はさらに利用者の生活に視点をおき、地域の中で暮らして行く事を支援するために、インフォーマルなサービスについても位置づけて、その人らしい暮らしが実践できるプランの作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに身体状況や暮らしの様子等を記録し情報を共有している。その記録を基にして介護計画の見直しや評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する状況に合わせて、職員の勤務体制等その時々ニーズに合わせて柔軟に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお菓子工房や喫茶店等でおやつを購入したり地域の方から野菜を頂いた際にそれを利用し食事や漬物を作ったり等で支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所協力医院やご本人のかかりつけ医に受診でできるように支援している。その時の状態や結果などもご家族へ報告している。	入居時に協力医への移行とこれまでのかかりつけ医への受診継続を選択してもらっている。現在は利用者全員が協力医への受診となっており、月2回職員の付き添いで受診を行っている。受診後は家族に結果を報告している。眼科等の専門医については家族対応の受診としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診や日常における状態の変化などを協力病院に連絡、指示等を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にご家族との情報交換により回復状態等を把握し、退院に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に事業所が対応できる最大限のケアを説明し、重度化した際には協力病院との連携及びご家族と十分に話し合いを行うように努めている。	契約時に事業所の重度化や終末期における方針を利用者・家族へ丁寧に説明し、同意を得ている。継続した医療行為が必要になった際や、介助によっても入浴ができなくなった時には、利用者、家族、かかりつけ医と話し合い、住み替えを行っている。事業所を運営する法人は、特別養護老人ホームや老人保健施設、病院を運営しており、利用者の状態に合わせて不安なく移行できるように支援している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の個々の状態を把握し、急変や事故発生時の対応等の勉強会を開催し事故防止に努めている。	感染症対策や事故防止に関する委員会を併設の特別養護老人ホームと合同で設置し、事業所職員も委員となっている。会議録は回覧報告により職員間で共有が図られている。研修はオンライン（Zoom）を活用したり、感染症流行期前には特別養護老人ホームの看護師による実践的な研修を定期的実施していた。事故やヒヤリハットの事例収集やデータ化は委員会で行い、両施設の事故事例については検証や改善策について検討され、全職員に情報共有が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の特養と連携をして訓練を行う事で総合的な訓練方法を身に着けるように努めている。	併設の特別養護老人ホームと合同で、年2回の避難訓練を実施している。地域の自主防災訓練や地域住民参加での避難訓練は、コロナ禍にある事で実施できていないが、管理者は地域の協力体制の構築や福祉避難所としての受け入れに対する整備を進めて行く構想を持っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人ひとりの人格や性格を把握し、干渉や自尊心を損ねないような声掛け、対応に努めている。	利用者の生活歴やこれまでの暮らし方を把握し、その人らしい暮らしが送られるように支援している。利用者を尊重した言葉掛けや、接遇に関してはミーティングの中で話し合いを行っている。また、手紙などは居室で渡すなどプライバシーの確保に努めている。手紙は利用者の希望に応じて職員が読み上げるなどの支援をすることもある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、ご利用者個人に合った声掛けや自己決定、意思決定ができるように常に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者個々の生活ペースを大切に、安心して生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活環境の中で自分らしい身だしなみや理美容を行えるよう、ご本人に伺いながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者個々の嗜好に合ったものを提供したり、職員と一緒に食事を作ったり片づけをしたり等食事を楽しめるように支援している。	献立は併設する特別養護老人ホームの管理栄養士が作成し、調理を事業所で行っている。利用者は米研ぎや、盛り付け、食器の片付け等、それぞれに参加することが出来ている。コロナ禍で外食に制限がある中、誕生日会にはケーキを用意してお祝いし、また、馴染みの菓子屋さんの協力で、季節が感じられる和菓子と抹茶を楽しんだり、食べる楽しみを色々と工夫を行いながら支援している。毎年、地域の方から差し入れてもらう大根を使用して漬物づくりを行うことも恒例の楽しみになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々のご利用者の状態に応じた食べやすい食事形態になるように努めている。摂取量の低下防止や栄養バランスを考えた食事になるように支援している。食事以外の所でも水分補給を行い、ご利用者の好きなものを選んで頂き、水分を摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者一人一人の状態に合わせて職員の声掛けや介助にて食後の口腔ケアや洗口液による清潔維持に努めている。夜間は義歯の洗浄消毒を行い疾病防止に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者個々の状態や排泄時の行動パターンを把握し、気持ち良く生活できるように努めている。	排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。時間誘導を行ったり、仕草やサインをキャッチした際にはさりげなく声掛けを行い、トイレでの排泄を支援している。利用者の状態により、紙おむつの定時交換が必要な利用者もいるが、入居時より状態が改善した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ご利用者の排泄状態を職員間で共有し、便秘気味の場合は食事内容や水分の摂取量等の見直しをしたり、運動を行い自然排便ができるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前の体調や入浴時間を考えて、安全に気持ち良く入浴ができるよう、常に心掛けている。	入浴時間は家庭での入浴時間に合わせて、午後から夕方時間帯としている。一人ひとりの好みに合わせて、湯温や浴槽に浸かる時間も調整し、リラックスして入浴ができるように心掛けている。入浴時は着替えの選択から入浴後の整髪まで、一人の職員が担当しており、職員とゆっくり過ごせる時間にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者個々の生活パターンや表情、行動を把握し適切な休息や睡眠を促して毎日安心して生活ができるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者個々の処方箋は職員が管理し、効果や副作用を共有し理解し、屯用薬は服用すべきか相談しながら支援をしている。服薬時は確実に服薬できたかどうかを確認した上で状態を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者ができる事と出来ないことを把握し、裁縫や書道等気分転換ができるように支援している。家事等のお手伝いなどでは感謝の声掛けを伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの為外食等行えていないが、紅葉等でドライブに行く等をして外出支援をしている。	コロナ禍以前は外食や喫茶店に行ったり、1ヶ月に1回は居室担当職員と一緒に外出をして食事をする等の支援も行っていたが、現在は自粛している。コロナ禍でも人混みを避けてドライブを楽しんだり、事業所近くの神社に行く事は支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人外出をコロナの為行っておらず、個人でお金を使用する機会がなかった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人の方にはハガキや電話でのやり取りができるように支援をしている。ご家族には家族通信を発行したり電話で定期的の様子をお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけをしている。季節の変化を感じられるように工夫しご利用者が居心地よく快適に過ごして頂けるように支援している。	食堂は窓も大きく明るく、空調管理も適切に行われており、利用者がリハビリ体操をしたり、歌を歌ったりしながら楽しく過ごせる場所となっている。テレビの前に設置してあるソファでゆったり過ごしたり、プランターに植えられた花を窓越しに眺めて季節を感じることも出来ている。また、壁面には季節感のある飾りつけ(夏ならば七夕の短冊)をし、利用者の書道等も飾って楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者がお互いに気軽に会話ができるような環境を作り職員が間に入り、話題作りができるよう支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご利用者の馴染みの物や写真などを置き居心地の良い空間を安心して過ごせるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	一人ひとりの状態を把握し、自立し安心安全にご自身のできる事を活かした生活ができるよう工夫に努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				